

令和6年1月分概況

1月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、化学工業、輸送機械工業などが上昇したことから、3か月連続のプラスとなった。

生産、在庫は上昇、出荷は低下で推移

◆ 1月の主な数値の動向（調査産業計）

（令和2年＝100）

	季節調整済指数			原指数		
	総合指数	前月比(%)		総合指数	前年同月比(%)	
生産	146.2	28.0	3か月連続＋	126.8	51.1	3か月連続＋
出荷	109.1	▲0.9	2か月連続－	97.0	18.7	3か月連続＋
在庫	131.4	9.6	2か月連続＋	131.7	▲13.1	4か月連続－
在庫率	124.3	13.9		120.7	▲32.4	

○生産指数は、季節調整済指数で、3か月連続のプラス、原指数で、3か月連続のプラスとなった。

○出荷指数は、季節調整済指数で、2か月連続のマイナス、原指数で、3か月連続のプラスとなった。

○在庫指数は、季節調整済指数で、2か月連続のプラス、原指数で、4か月連続のマイナスとなった。

○総合指数前月比の伸び率（上昇又は低下）に影響を与えた主な業種

<生産> 上昇: 化学工業 (265.9%)、輸送機械工業 (16.1%)
 <出荷> 低下: 業務用機械工業 (▲37.3%)、電気機械工業 (▲14.4%)
 <在庫> 上昇: 化学工業 (32.5%)、生産用機械工業 (9.5%)

○前月比が最も大きかった業種

<生産> 上昇: 化学工業 (265.9%) / 低下: 生産用機械工業 (▲33.1%)
 <出荷> 上昇: 化学工業 (25.4%) / 低下: 業務用機械工業 (▲37.3%)
 <在庫> 上昇: 化学工業 (32.5%) / 低下: 電子部品・デバイス工業 (▲34.6%)